

健康科学部 3 つのポリシー（2025 年度生用）

I. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

健康科学部は、科学的知識と高度な技能を備えて、人々の健康の回復・保持・増進に対して主体的・自律的・実践的に貢献できる人材の養成を教育目標として、以下の 3 点を学士課程において身につけるべき学士力と定め、これを学位授与の方針として明示します。

1. 知識・技能

講義、演習などでの読む・聴く・書く・話すことの反復をとおして、乳幼児から高齢者に至る各ライフステージにおける「こころ」と「からだ」及びそれらの相互作用に関する基礎知識を収集・整理・理解し、さらに実習などでの体験をとおして実践的スキルを適切に活用できるようになる。

2. 思考力・判断力・表現力

修得した知識と技能をもとに、「こころ」と「からだ」の働きに関わる課題を主体的に探索・発見し、解決に向けた適切な方法を自律的に考案する思考力と判断力を持ち、得られた成果を科学的に数量化して分析し、客観的かつ論理的な記述によって表現できるようになる。

3. 協創力

健康で幸福な社会の実現に向けて、多様な人々と協働することによって、「こころ」と「からだ」の働きに関わる問題に対する持続可能な解決プロセスを創出し、健康に関する新たな価値観を創造できるようになる。

II. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

健康科学部は、大学の教育目標に基づいて、ディプロマ・ポリシーを実現するためのカリキュラム・ポリシーを次の通りとします。学修成果については、シラバスに明示した成績評価基準による厳格な成績評価とともに、広島修道大学アセスメントプランに基づいた教育課程全体の評価の二つで評価します。

1. 基礎から発展へ

乳幼児から高齢者に至る各ライフステージにおける「こころ」と「からだ」の「健康」に関する知識を円滑に修得できるようにするために、初年次の基礎科目から高学年次の発展的な科目へと段階的に配置し、卒業年次には学士課程における学修成果の集大成となる科目を配置します。

2. 視野の拡大

主体性を持って問題を発見し、多様な価値観を持つ他者と共感的な人間関係を構築しながら問題解決に当たる協働性を涵養するとともに、問題について広い視野で客観的かつ公平に考察できるようにするために、低学年次の受動的な学修を出発点としつつも、他者との協働作業や議論、プレゼンテーションを踏まえながら自律的に学修できる科目を高学年次に配置します。

3. 経験の拡充

「こころ」と「からだ」に関して科学的に数量化して分析する技能と、その分析を通じて得られた結果を活用する思考力及び創造力を涵養するために、低学年次には講義を中心とした座学と基礎的な実習によって基本的知識・技能を教授する科目を配置し、身につけた知識・技能を様々な経験をとおして実践知に高めるために高学年次にはそれらの実践的活用を目指す演習及び実験・実習の科目を配置します。

III. 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

健康科学部では、学力の 3 要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）に加え、人間の「こころ」と「からだ」の仕組みと働きに関して、絶えざる興味を持った人を求めます。すなわち、学士課程教育を受けるために必要な基礎知識・技能とともに、入学後の学修において必要な、思考の柔軟性、創造力、主体性を持った問題発見能力・問題解決能力及び倫理性を持ち、多様な価値観を持つ他者と協働・協創して真摯に学ぶことができる人を求めます。

2. 入学試験制度と評価

健康科学部は、上記の基礎能力や資質を確かめるために、入学試験制度ごとに「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を多面的・総合的に評価します。評価の比重及び評価方法は、各学科のアドミッション・ポリシーで明示します。

3. 健康科学部の教育を通じて養う能力

健康科学部では、人間の「こころ」と「からだ」の心理学的・生理学的・生物学的な仕組みと働きについて科学的に探究し、健康の回復・保持・増進に向けて問題の解決に当たることのできる能力を身につけます。

心理学科 3 つのポリシー（2025 年度生用）

I. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学科では、科学的知識と高度な技能を備えて、人々の「こころの健康」の回復・保持・増進に対して主体的・自律的・実践的に貢献できる人材の養成を教育目標として、以下の 3 点を学士課程において身につけるべき学士力として明示します。

1. 知識・技能

科学的心理学の知見・方法・理論の歴史的展開と現状に関する基礎知識を修得し、人間の「こころ」と行動を科学的に数量化し統計的に分析する技能を身につけ、活用することができる。

2. 思考力・判断力・表現力

「健康」問題に代表される日常の身近な課題の背景にある人間の「こころ」と行動の働きを自ら調べ、適切な探究方法を考案する思考力・判断力を持ち、自律的に課題の解決に取り組むことができる。さらに、得られた成果を客観的かつ論理的に記述し表現できる。

3. 協創力

自他ともに信頼し、他者の言葉に耳を傾け、他者の行動に関心を持って共感的な人間関係を構築し、協働して持続可能な問題解決プロセスを創出することができる。

II. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

心理学科は、大学の教育目標に基づいて、ディプロマ・ポリシーを実現するためのカリキュラム・ポリシーを次の通りとします。学修成果については、シラバスに明示した成績評価基準による厳格な成績評価とともに、広島修道大学アセスメントプランに基づいた教育課程全体の評価の二つで評価します。

1. 基礎から発展へ

初年次には、科学的心理学の知見・方法・理論の歴史的展開と現状に関する基礎的知識を体系的に教授する科目を《健康科学部総合科目》及び《専門基礎科目》に配置し、そこから高学年次の《専門発展科目》へと段階的に主専攻科目を配置し、卒業年次には学修成果の集大成となる『卒業論文』を配置します。

2. 視野の拡大

低学年次には《健康科学部総合科目》及び《専門基礎科目》での学びを通して、人間の「こころ」と行動に関する基礎知識を修得します。それをもとに、「健康」問題に代表される日

常の身近な課題に対して適切な探究方法を考案し、他者と共感的な人間関係を構築しながら自律的に解決する能力を涵養する科目を、高学年次に向け《専門発展科目》に配置します。

3. 経験の拡充

人間の「こころ」と行動を科学的に数量化する方法及び得られたデータを統計的に分析する技術を教授する科目を、低学年次に《健康科学部総合科目》及び《専門基礎科目》に配置します。学修した知識や技能を実践知に高めるために高学年次にはそれらの実践的活用を目指す演習及び実験・実習の科目を配置します。

Ⅲ. 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

心理学科では、学士課程教育を受けるために必要な基礎知識及び技能を備え、入学後の学修において必要な柔軟な思考力、創造力、主体性を持った問題発見能力・問題解決能力及び倫理性を持ち、多様な価値観を持つ他者と協働して「こころの健康」に強い関心と探究心を持って学ぶことができる人を求めます。心理学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1) 知識・技能

高等学校における主要教科に関する基礎的な知識・技能を有する人。すなわち、日本語や英語で書かれた文献を読解し、論述や口頭でのコミュニケーションを行うための基礎的な国語力や英語力、社会の動向に関心を持ち、図表や資料を読み取ったり、図表を用いて表現したりするための数学や理科、社会に関する基礎的な知識・技能を有する人。

(2) 思考力・判断力・表現力

「こころの健康」に強い関心を持ち、地域や社会における日常の身近な問題に気づく観察力、その問題を解決するために文献を読解し、それをもとに考察し、自らの結論を導く思考力・判断力、その結論を論理的な文章や口頭発表によって説得的に示す表現力及びこの問題解決プロセスに主体性を持って取り組む態度を有する人。

(3) 主体性等

自らの考えや意見を明確に表現するとともに、多様な価値観を持つ他者の考えや意見も尊重し、互いに理解し合う共感的な人間関係を築きながら、積極的に他者と協働する力を有する人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの基本的な知識を幅広く習得していることが大切です。

特に、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために、国語の基礎学力が必要です。また、自分の興味関心を広げるために、様々な本や記事を読むこともおすすめします。

2. 入学試験制度と評価

心理学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と出身学校調査書によって多面的・総合的に評価します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、出身学校調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と出身学校調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3) 総合型選抜

志望理由書に基づいて心理学科で学修することの意義について強い関心を持って入学を希望していることを確認します。そのうえで、集団活動試験及び集団討論に基づいて、問題解決のための柔軟な思考力・情報収集力、問題解決の成果を分析する能力と判断力、分析結果を論理的な文章と適切な図表とによって説得的に示す表現力及びこの問題解決プロセスに主体性を持って他者とともに取り組む協働力等を評価します。

総合型選抜では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置き、出身学校調査書に基づく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(4) 学校推薦型選抜（公募）

【専願】

志望理由書に基づいて、心理学科で学修することを強く希望していることを確認します。そのうえで、小論文形式による個別学力検査に基づき、知識・技能、身の周りの日常的な問題に気づく観察力や思考力、問題解決の成果を分析する能力と判断力及び分析結果を論理的な文章によって説得的に示す表現力を評価します。さらに、集団面接、志望理由書及び出身学校長の推薦書等によって、高等学校等での正課・課外活動への主体性を持った取り組み及び多様な価値観を持つ他者に対する包容力と協働力等を評価します。

学校推薦型選抜（公募・専願）では、学力の3要素である、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性に注目し、出身学校長の推薦書等に基づく評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

学校長から推薦され、入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と、出身学校長の推薦書、出身学校調査書によって多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜（公募・併願）では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜（指定校）

志望理由書に基づいて心理学科で学修することの意義について強い関心を持って入学を希望していることを確認したうえで、面接に基づいて主体性、多様な価値観に対する包容力及び協働力等を評価します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、出身学校調査書、出身学校長の推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜（附属校）

【専願】

志望理由書に基づいて心理学科で学修することの意義について強い関心を持って入学を希望していることを確認したうえで、面接に基づいて主体性、多様な価値観に対する包容力及び協働力等を評価します。面接の結果に重点を置き、志望理由書と出身学校長の推薦書に基づく知識及び思考力等の評価を加味して多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、出身学校調査書、出身学校長の推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書に基づいて心理学科で学修することの意義を理解し、学習意欲があることを確認したうえで、面接に基づいて主体性、多様な価値観に対する包容力及び協働力等を評価します。面接の結果に重点を置き、志望理由書と出身学校長の推薦書に基づく知識及び思考力等の評価を加味して多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、出身学校調査書、出身学校長の推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7) 帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(8) 外国人留学生選抜

日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに、志望理由書に基づいて心理学科で学修することの意義について強い関心を持って入学を希望していることを確認し、面接によって知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、協働力及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価したうえで、日本留学試験の成績と面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(9) 編入学試験・学士入学試験

英語、小論文、面接の試験科目を課して、第3年次に入学するために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等を有しているかを多面的・総合的に評価します。（2025年度は実施しません。）

3. 心理学科の教育を通じて養う能力

心理学科では、人間の「こころ」の心理学的・生理学的な仕組みと働きについて科学的に探究し、「こころの健康」の回復・保持・増進に向けて、他者と協働・協創して、問題の解決に当たることのできる能力を身につけます。

(別表)各入試制度における学力の3要素の評価比重と評価方法(◎は重点評価項目)

区分	入試制度	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等	
		比重	評価方法	比重	評価方法	比重	評価方法
一般選抜	一般選抜(前期日程)	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績 (共通テストプラス方式のみ) ・英語資格・検定 (共通テストプラス方式のみ) ・出身学校調査書	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績 (共通テストプラス方式のみ)		
	一般選抜(後期日程)	◎	・個別学力検査 ・出身学校調査書	◎	・個別学力検査	○	・出身学校調査書
	共通テスト利用選抜 (前期日程・後期日程)	◎	・共通テストの成績 ・英語資格・検定 ・出身学校調査書	◎	・共通テストの成績		
総合型 選抜	総合型選抜	○	・課題図書に関する 筆記試験 ・集団活動試験 ・集団討論 ・出身学校調査書	◎	・課題図書に関する 筆記試験 ・集団活動試験 ・集団討論 ・志望理由書	◎	・集団活動試験 ・集団討論 ・志望理由書
学校推薦型 選抜	学校推薦型選抜 (公募・専願)	◎	・小論文 ・面接 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書 ・志望理由書	◎	・小論文 ・面接 ・出身学校長の推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜 (公募・併願)	◎	・個別学力試験 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書	◎	・個別学力試験		
	学校推薦型選抜 (指定校)	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書 ・志望理由書	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜 (附属校)	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書 ・志望理由書	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書 ・志望理由書

健康栄養学科 3 つのポリシー（2025 年度生用）

I. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 知識・技能

栄養学を核とし、保健・医療・福祉・食品・心理と連携する学際的な領域において、「からだ」の健康と栄養に関する高度な専門知識と技能を有し、実践的な場において活用することができる。

2. 思考力・判断力・表現力

「健康」問題に代表される日常の身近な課題を確認し、適切な探究方法を考案する思考力・判断力を持ち、自律的に課題の解決に取り組むことができる。さらに、得られた成果を客観的かつ論理的に記述できる表現力を備えている。

3. 協創力

食生活に関する自己管理能力を持ち、自身が望ましい食習慣を形成するとともに、他者の言葉に耳を傾け、他者の行動に関心を持って人間関係を構築し、協働して持続可能な食や健康に関する問題解決プロセスを創出することができる。

II. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

健康栄養学科は、大学の教育目標に基づいて、ディプロマ・ポリシーを実現するためのカリキュラム・ポリシーを次の通りとします。学修成果については、シラバスに明示した成績評価基準による厳格な成績評価とともに、広島修道大学アセスメントプランに基づいた教育課程全体の評価の二つで評価します。

1. 基礎から発展へ

栄養学を核とし、保健・医療・福祉・食品・心理と関連する学際的な領域において、「からだ」の健康と栄養に関する高度な専門知識と技能を体系的に教授する科目を、主専攻科目の《健康科学部総合科目》、《専門基礎分野》及び《専門分野》に配置します。

2. 視野の拡大

「からだ」の健康と栄養について、学際的・科学的にアプローチするための理論と方法を教授する科目を、《健康科学部総合科目》に、管理栄養士として必要とされる基礎知識と技術を涵養する科目を《専門基礎分野》に、管理栄養士としての確かな実践力、他者と共感的な人間関係を構築しながら問題解決に当たる協働性、問題について広い視野で客観的かつ公平に考察できる力を涵養する科目を《専門分野》に配置します。

3. 経験の拡充

地域社会の実践的な場において必要とされる発展的な知識を教授するとともに、地域の

人々の健康の回復・保持・増進に貢献できる力を涵養する科目を、《専門発展分野》及び《ゼミナール》に配置します。

Ⅲ. 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

健康栄養学科では、学士課程教育を受けるために必要な基礎知識及び技能を備え、入学後の学修において必要な柔軟な思考力、創造力、主体性を持った問題発見能力・問題解決能力及び倫理性を持ち、多様な価値観を持つ他者と協働して「人の健康と栄養」に強い関心と探究心を持って学ぶことができる人を求めます。健康栄養学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1)知識・技能

高等学校における主要教科に関する基本的な知識・技能を有する人。すなわち、日本語や英語で書かれた文献を読解し、論述や口頭でのコミュニケーションを行うための基礎的な国語力や英語力、社会の動向に関心を持ち、図表や資料を読み取ったり、図表を用いて表現したりするための数学や理科、社会に関する基礎的な知識・技能を有する人。

(2)思考力・判断力・表現力

「人の健康と栄養」に強い関心を持ち、地域や社会における日常の身近な問題に気づく観察力、その問題を解決するために文献を読解し、それをもとに考察し、自らの結論を導く思考力・判断力、その結論を論理的な文章や口頭発表によって説得的に示す表現力及びこの問題解決プロセスに主体性を持って他者と協働できる態度を有する人。

(3)主体性等

自らの考えや意見を明確に表現するとともに、多様な価値観を持つ他者の考えや意見も尊重し、互いに理解し合う共感的な人間関係を築きながら、積極的に他者と協働する力を有する人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの基本的な知識を幅広く習得していることが大切です。

特に、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために、国語の基礎学力が必要です。また、自分の興味関心を広げるために、様々な本や記事を読むこともおすすめします。

2. 入学試験制度と評価

健康栄養学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重

と評価方法については、別表をご覧ください。

(1)一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と出身学校調査書によって多面的・総合的に評価します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、出身学校調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2)共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と出身学校調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3)総合型選抜

志望理由書に基づいて健康栄養学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。そのうえで、課題に関するレポート、課題レポートをもとにしたプレゼンテーションの内容（質疑応答の状況を含む）で審査を行います。その審査結果及び出身学校調査書に基づき、多面的・総合的に評価します。

総合型選抜では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置き、出身学校調査書に基づく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(4)学校推薦型選抜（公募）

【専願】

学校長から推薦され、健康栄養学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを志望理由書に基づいて確認します。そのうえで、小論文形式による個別学力検査に基づいて、知識・技能、身の周りの日常的な問題に気づく観察力や思考力、問題解決の成果を分析する能力と判断力及び分析結果を論理的な文章によって説得的に示す表現力を評価します。さらに、集団面接、志望理由書及び出身学校長の推薦書等によって、高等学校等での正課・課外活動への主体性を持った取り組み及び多様な価値観を持つ他者に対する包容力と他者との協働性等を評価します。学校推薦型選抜（公募・専願）では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

【併願】

学校長から推薦され、入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と、出身学校長の推薦書、出身学校調査書によって多面的・総合的に評価します。学校

推薦型選抜（公募・併願）では、学力の 3 要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(5)学校推薦型選抜（指定校）

志望理由書に基づいて健康栄養学科で学修することの意義を理解し、「人の健康と栄養」に関して強い関心を持ち、入学を希望していることを確認したうえで面接に基づいて主体性、多様な価値観に対する包容力及び他者との協働性を評価します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の 3 要素全てを同じ比重で評価し、出身学校調査書、出身学校長の推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6)学校推薦型選抜（附属校）

【専願】

志望理由書に基づいて健康栄養学科で学修することの意義を理解し、「人の健康と栄養」に関して大いに関心を持ち、強く入学を希望していることを確認したうえで、面接に基づいて主体性、多様な価値観に対する包容力及び他者との協働性を評価します。面接の結果に重点を置き、志望理由書と出身学校長の推薦書に基づく知識及び思考力等の評価を加味して多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の 3 要素全てを同等の比重で評価し、出身学校調査書、出身学校長の推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書に基づいて健康栄養学科で学修することの意義を理解し、「人の健康と栄養」に関して大いに関心を持ち、学習意欲があることを確認したうえで、面接に基づいて主体性、多様な価値観に対する包容力及び他者との協働性を評価します。面接の結果に重点を置き、志望理由書と出身学校長の推薦書に基づく知識及び思考力等の評価を加味して多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の 3 要素全てを同等の比重で評価し、出身学校調査書、出身学校長の推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7)帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(8)外国人留学生選抜

日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに、志望理由書に基づいて健康栄養学科で学修することの意義について強い関心を持って入学を希望していることを確認し、面接によって知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、協働性及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価したうえで、日本留学試験の成績と面接結果を同等の比重で評価・判定します。

3. 健康栄養学科の教育を通じて養う能力

健康栄養学科では、「人と食」の多面的な学びをベースに、主たるテーマである「人の健康と栄養」を科学的に探求し、栄養士・管理栄養士として「人の健康の回復・保持・増進」に向けて、他者と協働・協創して、問題の解決に当たることのできる能力を身につけます。

(別表)各入試制度における学力の3要素の評価比重と評価方法(◎は重点評価項目)

区分	入試制度	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等	
		比重	評価方法	比重	評価方法	比重	評価方法
一般選抜	一般選抜(前期日程)	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績 (共通テストプラス方式のみ) ・英語資格・検定 (共通テストプラス方式のみ) ・出身学校調査書	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績 (共通テストプラス方式のみ)		
	一般選抜(後期日程)	◎	・個別学力検査 ・出身学校調査書	◎	・個別学力検査	○	・出身学校調査書
	共通テスト利用選抜 (前期日程・後期日程)	◎	・共通テストの成績 ・英語資格・検定 ・出身学校調査書	◎	・共通テストの成績		
総合型選抜	総合型選抜	○	・プレゼンテーション審査 ・出身学校調査書 ・課題レポート	◎	・プレゼンテーション審査 ・志望理由書 ・課題レポート	◎	・プレゼンテーション審査 ・志望理由書 ・課題レポート
学校推薦型選抜	学校推薦型選抜 (公募・専願) [指定資格方式]	◎	・小論文 ・面接 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書 ・志望理由書	◎	・小論文 ・面接 ・出身学校長の推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜 (公募・併願)	◎	・個別学力検査 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書	◎	・個別学力検査		
	学校推薦型選抜(指定校)	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書 ・志望理由書	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(附属校)	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書 ・志望理由書	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・出身学校長の推薦書 ・出身学校調査書 ・志望理由書